

■コメント

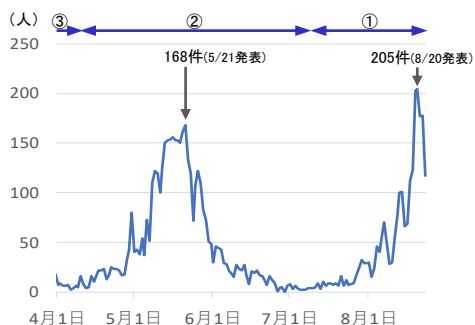
新型コロナウイルス感染症

1日の新規感染者数は、過去最多の205件(8月20日発表)を記録し、第33週は1,115件の報告がありました。これは、感染拡大地域へ旅行した方や感染拡大地域から帰省した方等から家族や知人へ、職場の同僚へと、急速に広がっていることが主な要因と考えられます。

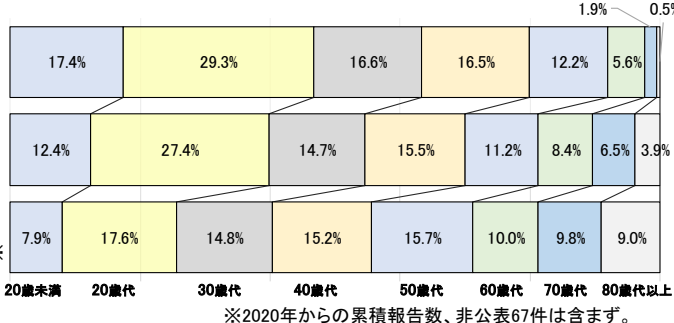
また、感染者の最近の傾向として、60歳代以上の方の割合が減少し、一方で、20歳未満の方の割合が増加しています。

これ以上の感染拡大を防止するために、基本的な感染防止対策に加えて、外出の半減やテレワーク等による出勤者の削減などの対策を徹底しましょう。

新規感染者数の推移(広島市)

①第28週～第33週
(報告数 2,218件)②第15週～第27週
(報告数 4,280件)③第14週までの累積
(報告数 3,391件)※

新規感染者の年齢割合の推移(広島市)



【参考】新型コロナウイルス感染症対策に関する市長メッセージ(8月19日)(広島市)

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/239830.html>

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.03		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.11	
	咽頭結膜熱	1	0.04	0.35		眼科	RSウイルス感染症	40	1.67	0.67	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	1.03			急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	37	1.54	2.54			流行性角結膜炎	3	0.38	0.69	
	水痘	2	0.08	0.27		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	3	0.13	1.06			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.07			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.29	
	突発性発しん	5	0.21	0.28			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	4	0.17	0.38			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.03	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

前週(第32週)は、お盆の休診の影響で、報告数が少なくなっている可能性があり、今週(第33週)と適正な比較ができないことから、発生記号は表示していません。

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	レジオネラ症	1	25	60歳代
5	梅毒	2	41	40歳代・2人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	（ロタウイルス） 感染性胃腸炎
報告数	広島市	第29週	-	1	7	39	-	1	-	6	5	7	167	-	4	-	-	-	-	-
		第30週	-	2	3	52	1	2	-	12	5	-	140	-	1	-	-	-	-	-
		第31週	-	6	12	42	4	1	-	7	2	-	188	-	1	-	-	-	-	-
		第32週	-	1	3	32	-	1	-	6	-	-	90	-	-	-	-	-	-	-
		第33週	-	1	12	37	2	3	-	5	4	-	40	-	3	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第29週	-	0.04	0.29	1.63	-	0.04	-	0.25	0.21	0.29	6.96	-	0.50	-	-	-	-	-
		第30週	-	0.08	0.13	2.17	0.04	0.08	-	0.50	0.21	-	5.83	-	0.13	-	-	-	-	-
		第31週	-	0.25	0.50	1.75	0.17	0.04	-	0.29	0.08	-	7.83	-	0.13	-	-	-	-	-
		第32週	-	0.04	0.13	1.39	-	0.04	-	0.26	-	-	3.91	-	-	-	-	-	-	-
		第33週	-	0.04	0.50	1.54	0.08	0.13	-	0.21	0.17	-	1.67	-	0.38	-	-	-	-	-
	全国	第31週	-	0.20	0.48	2.36	0.09	0.23	0.01	0.34	0.34	0.07	3.63	0.01	0.21	0.01	0.01	0.03	-	-
		第32週	-	0.13	0.30	1.48	0.07	0.20	0.01	0.23	0.20	0.05	2.46	-	0.14	0.01	0.02	0.03	-	-

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第33週(8月16日～8月22日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
72	140	358	179	179	110	48	23	6	-	1,115

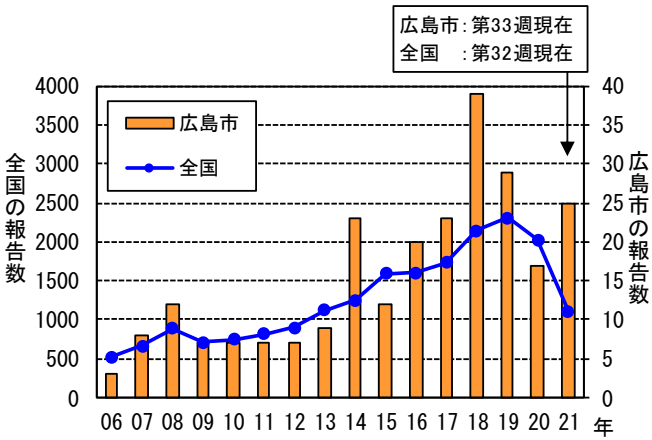
【累計報告数(8月22日)現在】※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
396	788	2,422	1,499	1,544	1,282	823	652	483	67	9,956

「風邪かな？」と感じたら、かかりつけ医や
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566 に連絡・相談しましょう。

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ
「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】広島市におけるレジオネラ症の発生動向について



【参考】レジオネラ症Q&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html

2021年の累計が、第33週で25件となりました。これは、発生動向調査が始まった1999年以降で最も多かった2018年(第33週時点で25件)と同様のペースです。

レジオネラ症は、河川や土壌など自然界に生息するレジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)などを吸入することで感染します。

病型として、重症の肺炎を引き起こす「レジオネラ肺炎(在郷軍人病)」と、一過性で自然に改善する「ポンティアック熱」が知られています。

レジオネラ肺炎は2～10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難などの症状が出現します。新生児や高齢者、免疫力の低下した人は、肺炎を起こす危険性が高く、特に注意が必要です。

国内では、循環式浴槽や加湿器の使用による感染事例の報告があり、適切な維持管理が必要です。また、屋外作業中に、舞い上がった土ぼこりを吸い込むことで感染することもあるため、作業に従事する際には、マスクを着用しましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp